

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 78人

② 算数 78人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

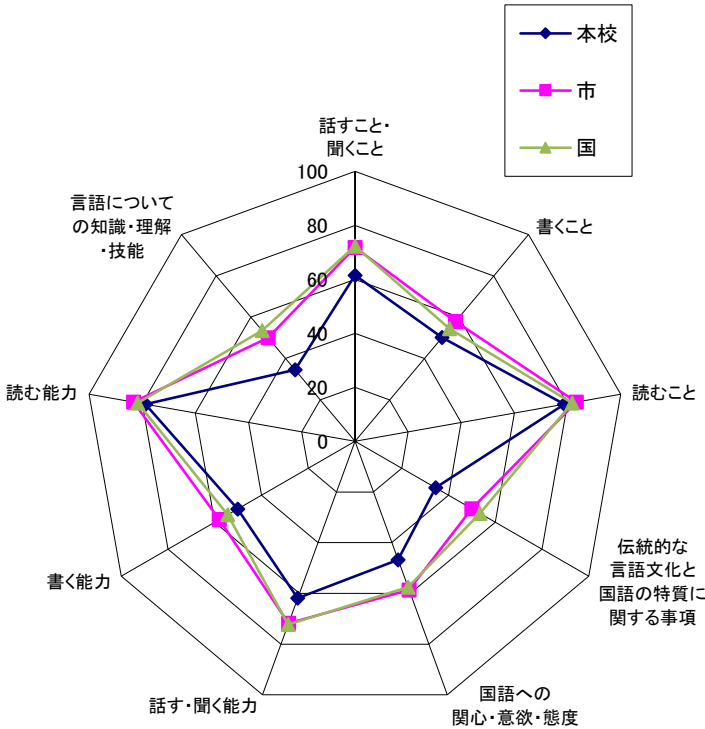
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	61.5	71.8	72.3
	書くこと	50.2	58.0	54.5
	読むこと	78.8	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	34.5	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	46.8	58.7	57.6
	話す・聞く能力	61.9	71.8	72.3
	書く能力	50.2	58.0	54.5
	読む能力	78.8	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	34.5	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

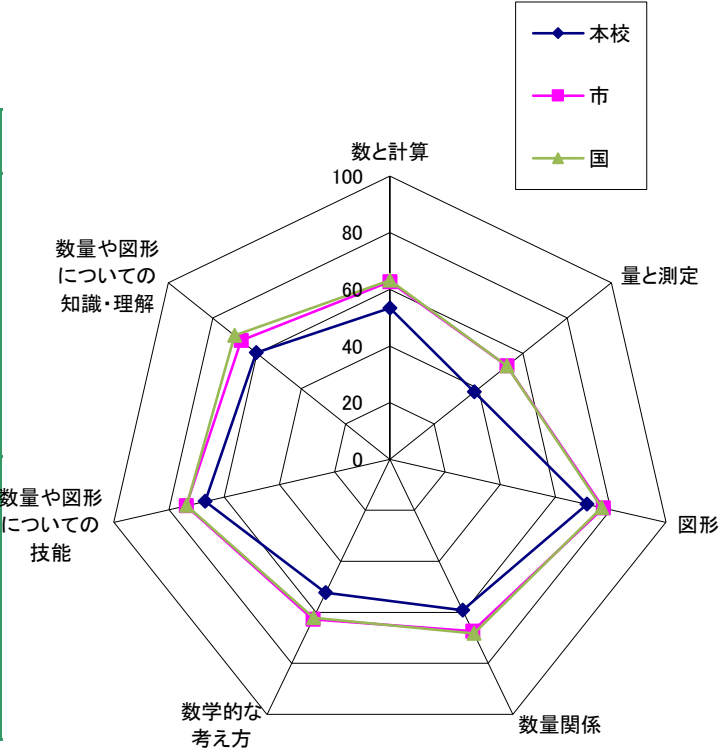
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、61.5%で、全国平均より10.8ポイント低い。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」という問題に対する平均正答率は50.6%で、全国平均より17.6ポイント下回った。	・目的や意図に応じて、話の要点をメモしたり、話を聞きながら自分の考えをもったりする活動を繰り返し行う。 ・話の内容や構成を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すよう指導する。 ・相手の反応を見て話すということを指導していく。 ・国語以外の授業や朝の会、児童会活動などでも、発表の機会を多く設定する。
書くこと	平均正答率は50.2%で、全国平均より4.3ポイント低い。●「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」という問題に対する平均正答率は18.2%で、全国平均より10.6ポイント下回った。	・目的や意図に応じて、文章構成を考えて書いたり、文を引用して書いたり、必要な内容を整理して書いたりするなどの指導をする。 ・学校生活の様々な場面で、自分の考えを書いたり、お礼の手紙を書いたりするなど、書くという機会を多く設定する。
読むこと	平均正答率は78.8%で、全国平均より2.9ポイント低い。●「目的に応じて、文の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」という問題に対する平均正答率は71.4%で、全国平均より4.5ポイント下回った。	・楽しむため、調べるためなど、目的に応じて本や文章を選ぶよう指導する。 ・内容を的確に押さええて読むことができるよう、読み取った事実と自分の感想とを区別して書く活動を取り入れていく。 ・自分の考えをまとめたり、自分の表現に生かしたりすることができるよう、文章の優れた叙述に着目して読むことを指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は34.5%で、全国平均より19.0ポイント低い。 ●漢字に書き直す問題に対する平均正答率はいずれも18.2%、45.5%、13.0%と低く、全国平均より、それぞれ23.7ポイント、23.9ポイント、22.6ポイント下回った。	・既習の漢字を日常で使えるように、様々な場面で漢字で書くよう指導する。 ・授業中、朝の学習、家庭学習などで、繰り返し、漢字の書き取りテストや練習を行い、定着を図っていく。その際、漢字習得の確認を自ら行えるようにする。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.4	62.7	63.2
	量と測定	38.1	52.9	52.9
	図形	71.4	77.3	76.7
	数量関係	59.2	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.3	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	66.9	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	60.4	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は53.4%で、全国平均より9.8ポイント低い。 ● 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題に対する平均正答率は44.2%で、全国平均を15.9ポイント下回った。	・計算の順序についてのきまりを復習し、授業中、朝の学習や家庭学習などで、四則の混合した整数・小数・分数の計算練習を繰り返し行い、定着を図る。
量と測定	平均正答率は38.1%で、全国平均より14.8ポイント低い。 ● 「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する」という問題に対する平均正答率は44.2%で、全国平均を18.4ポイント下回った。	・単位量当たりの大きさの意味や考え方を復習し、単位量当たりの大きさを求める問題に、授業中、朝の学習や家庭学習などで繰り返し取り組むようにする。 ・日常生活の問題の解決のために立式したり、結果から判断したりできるよう指導を進める。
図形	平均正答率は71.4%で、全国平均より5.3ポイント低い。 ● 「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する」という問題に対する平均正答率は54.5%で、全国平均を5.8ポイント下回った。	・授業の中で図形を扱うたびに、対辺が平行であるなどの図形の性質を復習する。その際、辺や角の大きさなどに着目して図形を捉えたり、合成や分解などの図形の構成について見方を働かせたりするよう指導する。
数量関係	平均正答率は59.2%で、全国平均より9.1ポイント低い。 ● 示された除法の式の意味を選ぶ問題に対する平均正答率は32.5%で、全国平均を14.5ポイント下回った。	・計算に関する性質を繰り返し復習し、能率的に計算するための工夫ができるよう指導し、計算が簡単になる良さに気付けるようにしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに対する肯定割合は87.2%で、全国の肯定割合より6ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の問いに対する肯定割合も、91%と高く、全国の肯定割合より、4.9ポイント上回っている。今後も、日々、児童の成長や頑張りを認め、児童の自尊感情を高めていきたい。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」の問いに対する肯定割合は、それぞれ、97.5%、98.7%となっており、全国の肯定割合を上回っている。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対する肯定割合は、93.6%、94.9%となっており、全国の肯定割合を上回っている。勉強の大切さや将来役に立つであろうという意識はとても高いので、これを学習への意欲につなげ、「わかる」「できる」授業を展開していきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の意見を発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の問いに対する肯定割合は43.5%で、全国の肯定割合より19ポイント下回っている。同様に国語の授業でも、「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」の問いに対する肯定割合は69.2%で、全国の肯定割合を8.9ポイント下回っている。話したり、書いたり、発表したりする以前に、人の話をよく聞いたり、読んだりすることが不十分であると考えられる。「読書は好きですか」の問いに対する肯定割合も65.4%と低く、全国の肯定割合より9.6ポイント下回っている。今後、人の話をよく聞いたり、いろいろな本を読んだりする活動を多く設定し、聞く力・読む力を伸ばし、その上で、話す・書く・発表する活動につなげていく。

●算数に関する問いに対しての肯定割合がいずれも低く、全国の肯定割合を下回っている。「学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いに対する肯定割合は65.4%、「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の問いに対する肯定割合は69.2%、「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の問いに対する肯定割合は71.8%で、それぞれ全国の肯定割合を11.1ポイント、9.9ポイント、10.3ポイント下回っている。分かる楽しさや解けたときの達成感を味わえるように、分かりやすい授業の展開を心がけ、理解が遅い児童には個別指導を徹底する。算数の授業においても、問題文をよく読んだり、問題を解く鍵となる部分を見付けたり、友達の説明をよく聞いたりして、聞く力・読む力を育てていく。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対する肯定割合は57.7%、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の問いに対する肯定割合は47.5%で、全国の肯定割合をそれぞれ10.3ポイント、7ポイント下回っている。自分たちは地域に守られ育てられているということを認識し、地域の方々に対し感謝の心がもてるよう、道徳の授業や日常生活の中で話をしたり、声をかけたりする。

宇都宮市立陽南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学び合いの活動を取り入れ、各教科で、共に考え学ぶ態度を育てる。	・ペアやグループ活動を取り入れ、それぞれの考えの良さを認め合い、クラス全体での練り合いができるようにする。	・「学級やグループで話し合ったりする活動に取り組むこと」や「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること」についての肯定割合が全国の肯定割合を下回ってしまった。学校全体の重点を学年でも意識し、学び合いの場を多く設定し、考えを認め合う活動を取り入れていきたい。
・学校図書館を活用した授業づくりの工夫	・学校図書館司書とのT・Tを取り入れ、調べ学習を充実させたり、読書に親しむ環境を整えたりする。	・読書を推進する活動を取り入れたり、調べ学習の指導の工夫を行ったりしたが、「読書」に関する問いに対する肯定割合が全国の肯定割合を下回ってしまった。今後も継続的に学校図書館と連携した取組を続け、読書への意欲を高めたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の学習において、「いろいろな方法で考えること」「もっと簡単に解く方法がないか考えること」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにすること」などの肯定割合が全国の肯定割合を下回った。	・少人数指導の中で、「わかる・できる」授業づくりを工夫する。	・分かる楽しさや解けたときの達成感を味わえるように、分かりやすい授業の展開を心がけ、理解が遅い児童には個別指導を徹底する。また、学び合いの中で、数学的な思考力を育てられるよう、友達の説明をよく聞いたり、自分の考えを深めたりできるようにする。